

### 生誕の地で公開生放送

#### ◆ KBCラジオバースデーフェスタ

1月12日、「ふるさと Wish」KBCラジオ65周年バースデーフェスタが、創業の地である六角堂広場で開かれ、多くの来場者でにぎわいました。会場では、ラジオ公開生放送や地元ドリムスFMとのコラボレーション番組の生放送、ステージイベントなどがありました。舞台には、ふるさと大使の石橋凌さんをはじめ、同局の名物パーソナリティーや歴代のリポーターが登場し、会場を盛り上げました。



ドリムス FM のスタジオで行われたコラボ番組「ふるさと Wish」



公開生放送でトークが行われた六角堂広場には多くの来場者が

会場で話を聞く同局の元リポーター。その様子も生放送されました



### ◆ 成人式 新たな門出3239人

1月13日、市内31カ所で成人式が行われ、3239人が新たに成人になりました。鳥飼校区の式には、約80人が出席しました。大久保勉市長は「お互いに支え合い、思い合いながら羽ばたいてほしい」と激励。新成人代表の安徳優真さん(津福本町)が「激励と祝福を胸に刻み、社会で活躍できるように研さんします」と抱負を語りました。



「新成人として自覚を持って研さんしていきたい」と話す安徳さん

### 未来の移動手段が完成間近

#### ◆ 対話型自動運転車いす開発の成果報告

久留米工業大学(上津町)は「対話型自動運転車いす」の研究開発を進めています。1月11日、同大学の東大輔教授が大久保勉市長を訪問し、成果を報告しました。この車いすは、行き先を伝えると、施設情報などと連携してお薦めの経路で移動します。デモンストレーションでは、市長室がある階を美術館に見立て、大久保市長が「モネの『日傘の女』が見たい」と話すと、絵の前まで案内しました。



受け答え役のロボットに話し掛けられ、笑顔で答える大久保市長(左)と見守る東教授(右)

### 市政の動き

#### 400件の業務改善を実現 最優秀賞は「0円で冊子制作」

久留米市は、仕事上の課題や問題点を改善しようとする意識を職員に持つてもらおうと、各職場の「改善実績」を全庁に向けて提案する制度を設けています。平成30年度は、約400件が提案され、書類選考を経て、八つの提案が最終審査へ。1月21日に、大久保勉市長や各部長、外部審査員の前でプレゼンテーションを行う発表会を開催しました。会の企画・運営は若手職員が担いました。

今年度の最優秀賞には、環境部が提案した「無償で作成!『ごみ分別事典』を久留米市全域に」が選ばれました。広告を載せることで、約650万円の冊子作成費用の負担をゼロにしました。講師で大久保市長が「使う人の気持ちになり軽量化するなど、きめ細やかな改善でした」と評価しました。



スライドなどを使い、制限時間内で改善のポイントを説明する提案者

### 大手人材派遣会社 市に事業所を開設

1月11日、大手人材派遣会社の「アウトソーシング」と、特例子会社の「アウトソーシングビジネスサービス」が、久留米市と進出協定を結びました。東町に事業所を新設し、15人を新たに雇用します。特例子会社とは、障害のある人の雇用に特別の配慮をした子会社です。真鍋謙志社長は、「久留米は交通の便が良く、働きやすい。障害があってもいろいろな仕事ができる環境を整えていく」と話しました。



締結式で手を取る真鍋社長(中央)と大久保市長(右)

### 充実する収蔵作品 市美術館で公開

平成28年11月、石橋財団から運営を引き継ぎ、久留米市美術館がスタートしました。開館に合わせて美術品の収集を始め、これまでに59点の絵画などを収集しました。開催中の「久留米市美術館のコレクション」ing きょうも活動中」では、29年度に収集した高島野十郎の「春雨」や「静物」、30年度収集の田崎廣助の「小松林」などを初公開しています。今後も計画的に美術品の収集を進めます。



同展で収蔵作品の解説をする美術館の学芸員